■ 2021.2.25　No230

脱原発情報

発行　双葉地方原発反対同盟　　責任者　石丸小四郎
970 － 8026　いわき市平童子町３－６　Ⅱ 903
TEL・FAX　0246-25-7737　携帯　090-4477-1641
E -mil：ishimaru19430106@gmail. com　ブログ「石丸日記」

福島県沖地震 M7.3 最大震度６強！
地震計 故障 分かっていたが 補修せず放置！

２月 13 日、23 時７分（資料1）福島県沖に、深さ 55 ｷﾛ、M 7.3、最大震度６強の地震が発生した。

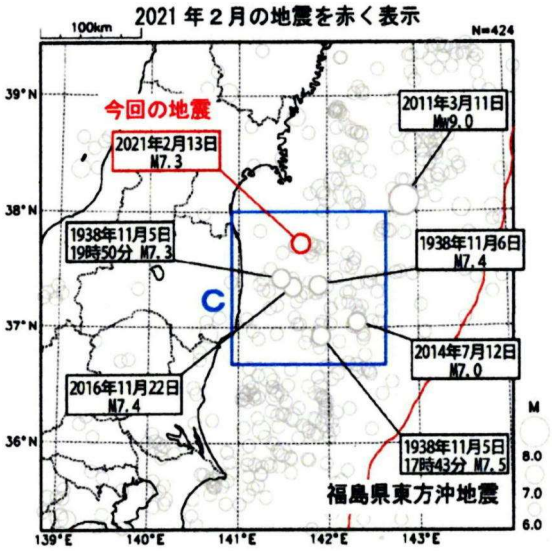
政府の地震調査委員会は 14 日、震源は長さ 40 ｷﾛ、南北方向に延びる断層との見解をまとめた。

けが人は 102 人、住宅倒壊 10 県で 3,282 件であった。

宮城県山元町では加速度 1,432 ｶﾞﾙの強い揺れを記録、南相馬市では西に２ｾﾝﾁ弱動く地殻変動を観測した。

今回の地震は（資料２）のように太平洋ﾌﾟﾚｰﾄの境界で震源が深く、ﾌﾟﾚｰﾄが跳ね上がる現象がなかったため地震随伴事象である津波は宮城県石巻港で 0.2 ｍ、同仙台港で 0.1 ｍの津波を観測しただけで被害はなかったという。

気象庁は青森沖から千葉県までの南北約 600 ｷﾛ、東西約 350 ｷﾛの領域を「余震域」として、この領域で発生する地震を“余震”と自動的に見ているという。



（資料1）震央分布図 右端の赤線は海溝軸

2004 年のｲﾝﾄﾞﾈｼｱ・ｽﾏﾄﾗ沖大地震（M 9.1）では震源近くでは、７年半後にM 8.6。11 年後、M 7.8 の大地震が発生し大きな被害をもたらしている。

（資料２）　陸のﾌﾟﾚｰﾄに入り込んだ太平洋ﾌﾟﾚｰﾄ

（資料３）は相馬市の崖崩れ現場である。普通自動車の側に２～３階建てビルのような岩石が転がっている。運転者は「目前に巨岩が落下、死を覚悟！」と語っていた。

（資料３）　２～３階建てのビルのような岩石が…

第一原発１～３号機の地震線量計が昨年から故障していたのに保守できず計測不能だったことが分かった。更に、汚染水処理ﾀﾝｸ約 20 基に地盤にズレを確認した。また、燃料棒ﾌﾟｰﾙの冷却水の漏れも確認したという。（２頁・詳細説明）

10 年前の 3.11 大震災直後「東北…あっちの方だから良かった！」と言った復興大臣がいた。

この人物は「列島の地下で何が起きているのか？」を知らないのだろう。いつどこで巨大地震が発生するのか**日本列島は時間差だけなのだ！**「南海ﾄﾗﾌ」と連動する「相模ﾄﾗﾌ」巨大地震は 70％の確率だという。油断禁物である！

３号機 地震計 故障
分かっていながら補修しなかった訳とは？

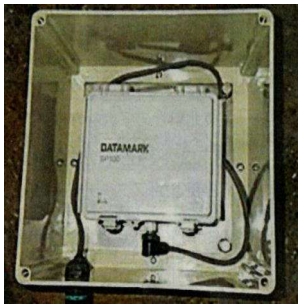
今回の地震で東電は、３号機原子炉建屋の地震計の故障を半年以上放置していたことを第 88 回特定原子力施設・評価検討会（2021.2.22 ｳｴﾌﾞ会議）（資料4）の場で指摘され、それを認める事態になった。

（資料5）が故障のため動かなかった地震計とある。この地震計は、今後の地震に耐えうるデータを集めるため、規制庁に指示され設置されたものであった。

（資料4）　ウエブ会議で開かれた評価検討会

その右の「３号機建屋内地震計を巡る経過」はその顛末である。

同会議、直前に「13 日に発生した福島県沖を震源とする地震について、東電から状況の説明をしてほしい」と促され会議は始まった。



・2020 年３月	１・５階に地震計を設置する
・同　　４月	地震計２機を運用開始する
・同　　７月	１号機の地震計の故障を確認
・同　　10 月	同５階の地震計の故障を確認
・2021 年２月	13 日、福島県沖６強の地震発生

（資料5）　３号機に設置されていた地震計と３号機建屋内の地震計を巡る経過

ところが同故障には一切触れず会議は進められた。規制委は「今回の地震は揺れが大きくデータをしっかり取ることが重要である」と言った。

東電は「**実は…データはない！地震による同時故障ではなく別々に故障した。千載一遇の重要なデータを取れなかった事の重要性を改めて感じている**」と話した。そして「５階と 1 階の地震計が同時にダメになるとはどういう理由なのか？」と問われた。しばし絶句した後…規制庁は「我々も、その後、点検していなかったが…タンク群の地震計も信頼できる物にする必要がある」と迫った。　廃炉ｶﾝﾊﾟﾆｰの小野氏は「大変申し訳ない。貴重なデータを取れるのを逃してしまった。今後十分な対策を取りたい」としたが、同会議責任者、伴委員は「**一つだけ確認したい！故障していた事に気が付きながら何もしなかったのか？**」と問うた。「**故障は分かっていたが対応を取れなかった！**」　これが本問題の最大のポイントである。

「分かっていながら対策を取れなかった」ここが、東電が抱える最大の病巣（びょうそう）である。

その理由は、第一原発の現場責任者・小林所長の談話に明確に表れている。「カイゼン進み、コスト削減、リソース（資源、供給源、物資不足、財源不足）が深刻であると…既報Ｎｏ 217（2020.1.25）その結果が明確に表れたのだ！このままでは大変な事態になると思う。

（資料6）　「タンクが圧迫…」と話したという内堀知事

実家の墓参りに向かう編集委員の M 君は「楢葉町に向かう時に高速道路に設置されたﾆﾀﾘﾝｸﾞﾎﾟｽﾄの線量掲示が『調整中』で放射線量の表示が消えていた…」との連絡があった。事故から 10 年…このような実態が進行している。先般、第一原発を視察した内堀知事は相も変わらず「タンクが圧迫…」と政府・東電の後押しをするような言動をしている。このままでは 10 年前の悲劇の再来と思わずにはおられない。

東電交渉　再開５８回目
アルプス 二次処理試験で見えて来たこと！

２月 10 日、いわき市において再開後 58 回目の東電交渉が行われた。今回は、多核種除去設備の「二次処理試験」問題を集中的に取り上げたため全３頁で掲載する。

【前回（2020.12.21）積み残し事項】

①米と黒毛和牛の賠償について。
②第一原発「建屋滞留水」を含めたトリチウム総量 2,069 兆ﾍﾞｸﾚﾙのｼｭﾐﾚｰｼｮﾝとは？
③汚染水の貯蔵管理及び処理費用は？
④第一原発作業員の外部被曝、月別集団線量、年度による変動を明らかにすること。
⑤Ｊヴレッジの原状回復工事の結果を報告すること。
⑥その他　１．汚染水のｻﾝﾌﾟﾙﾎﾞﾄﾙ（ﾋﾞｰｶｰ説明）の中止を求める 。その他６項目。

①について

（東電）風評被害が発生する場合、個別の事情を丁寧に伺いながら適切に賠償対応をしている。事故から 10 年経過した今尚、正しい情報が伝わらず継続しているため、試食販売会やﾒﾆｭｰを流通関係者や消費者に福島県産の魅力を伝え取り組む。

（諸団体）単独事業として行っているのか？

（東電）そこまでは把握していないので次回答える。

②について

（東電）第 16 回多核種処理施設等処理水の取り扱小委員会（2019.12.23）の「資料３」に建屋内に残留するﾄﾘﾁｳﾑ約 1,200 兆ﾍﾞｸﾚﾙは、新たに発生する汚染水に含まれると仮定。考慮されたｹｰｽｽﾀﾃﾞｰ（注１）となっている。タンク残量水 860 兆ﾍﾞｸﾚﾙ、建屋内残留 1,200 兆ﾍﾞｸﾚﾙ、合計で 2,000 兆ﾍﾞｸﾚﾙを第 16 回で示したｼｭﾐﾚｰｼｮﾝである。

（諸団体）2,069 兆ﾍﾞｸﾚﾙではないのか？何処 2,000 兆ﾍﾞｸﾚﾙが示されたのか？以前は 2,069 兆では？

（東電）我々のｼｭﾐﾚｰｼｮﾝではそうなっている。

（諸団体）何年間で放出するのか？

（東電）年間の処分量で３ﾊﾟﾀｰﾝある。１年間当たり 22 兆ﾍﾞｸﾚﾙ 2050 年まで…同 50 兆ﾍﾞｸﾚﾙ 2038 年まで…同 100 兆ﾍﾞｸﾚﾙ 2029 年のｽﾀｲﾙである。

（諸団体）とんでもない数字だ！ﾄﾘﾁｳﾑ放出総量（ｻﾌﾞﾄﾞﾚﾝなど）全部併せて 9,300 億ﾍﾞｸﾚﾙだった。年間 22 兆ﾍﾞｸﾚﾙ以上はとんだもない数字だ…事故前は年間２兆ﾍﾞｸﾚﾙだった！これを聞いたら“ハイ”そうですか等決して言わない。風評被害ではなく実害である。放出できる数字ではない！

③について

（東電）個別の費用については取引先とも関係があり公表は差し替える。

（諸団体）納得できない！単価を示せとは言ってない。10 年の実績、２年の内訳を示して欲しい？

（東電）令和２年度、汚染水対策ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ 506 億円であるが、その内容は次回に答えたい。

④について

〔ＨＰに掲載された中身で紙面の都合上割愛する〕

⑤について

（東電）第一原発事故収束のｴﾘｱとして使用してきたが、環境省とも協議してｽﾀｼﾞｱﾑ、楢葉町駐車場などで除染し返還したものである。

（諸団体）都内で交渉をしている。そこでＪヴッジ本館隣接地にある楢葉町駐車場に土壌、ｱｽﾌｧﾙﾄ・ｺﾝｸﾘｰﾄ、防球ﾈｯﾄ、ﾃﾆｽﾏｯﾄなど合計 52,818 立方ﾒｰﾄﾙの汚染物質があった。その中の 118 立方ﾒｰﾄﾙの線量が **103 万ﾍﾞｸﾚﾙ／ｷﾛｸﾞﾗﾑ**あった。ところが除染土を東電は「**原状回復工事で土地造成工事に再利用した。しかし、利用先については関係者に迷惑をかけるから答えられない**…」（既報 No226・2020.10.25）と答えてた。分かっているのか？福島県の担当は「ｴﾈﾙｷﾞｰ課」だそうだが、それを福島県は了承しているのか？

（東電）詳細が分からない、次回に答えたい。

⑥の１、について

（東電）視察者にｻﾝﾌﾟﾙﾎﾞﾄﾙ(ﾋﾞｰｶｰ説明)は処理水の現状を正しく知って貰うためのもので必要不可欠なものである。

（諸団体）某議会議員説明会の中で、それを知らない議員は「色もない、透明だなー！」と…海洋投棄しても問題ないとも取れる発言はしている。

（東電）ご意見として伺っておきたい。

（諸団体）ここに規制庁委員会主催の第 85 回特定原子力施設監視・評価検討会（2020.11.16）の資料４「多核種除去設備等処理水の二次処理性能確認試験等の状況について」の文書がある。そこの議事録に 38 頁（資料7）に「白濁」問題があった。同 59 頁には、説明をした山根という人物が「濃い白濁を確認し、運転を停止した…今回の事象については引き続き調査を行いたい」として白濁の理由は明らかにしないままになっている。それをキチンと説明したのか？

（資料7）　　CFF3が白濁有り CFF5が白濁なし

（東電）説明している。

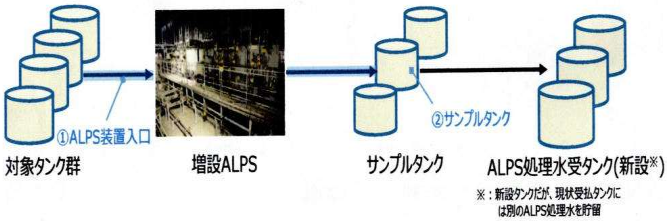
（諸団体）それは嘘だろう…白濁のない物を示し、だから「透明だ！」と発言しただろう。「白濁の原因は分からないので、引き続き調査する」としている。それを説明したと言うのか？

（東電）黙して語らず…。

（諸団体）同議事録 15 頁に「二次処理試験の結果について」を何回読んでも良く分からない。私たちは素人だが…３回読んだら…何となく分かる気がする！これは“禅問答”の様でサッパリ分からない。これは説明した人物も拝聴する人物も良く分からないのではないか？ 62 種類の核種を全部「告知濃度比総和１未満になることを確認した」と言い、その結果だけ示している。71 頁に同会の責任者の伴委員が発言している「…5ページとか7ページの数字を見ると、この数字を正しいものとして、そのまま受け止めて考えたくなるけれど…別にこれが間違っているということではなくて、不確かさを含んだ値だ。その不確かさの中には、単純な係数誤差、統計的に扱えるものなど、ﾌﾟﾛｾｽの過程で生じる変動もあると思う。それを振り分けて整理することが今後必要になる。私は、今日のこの説明というのは、取りあえずやってみた。これからいかの説明、ちゃんと量的に評価するのは、また次の段階だと思っている。だから、その意味で**不確かさ**の評価をどう考えていくのか、そこは念頭に置いて進めて欲しい」と発言している。「**不確かさ**」の意味は「**統計上、誤差が生じる…バラツキが生ずる**」となっている。そして69頁には同委員が「**環境中に放出することになった場合、その安全性に関して純粋に、科学的、技術的見地から詰めていくことになる。そこの役割はしっかり担っていくことになる**」と語っている。

（東電）黙して語らず…。

（諸団体）更に、驚くことがある。（資料８）二次試験行った行程が示されている。これを見た人物は「対象タンク４体→増設ｱﾙﾌﾟｽで処理→ｻﾝﾌﾟﾙﾀﾝｸ３体」で行われた。「**３ﾀﾝｸ 3,000 ﾄﾝで試験処理が行われた**」と見てしまう！ところが議事録 65 頁には、次のように書かれている。「…ｻﾝﾌﾟﾙﾀﾝｸの中段からｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞ…入り口は系統水を３回取って…出口の方は中段まで注水機を落としてｻﾝﾌﾟﾘﾝｸﾞした結果、それを **40 Ｌ程度取って全部集めて混ぜ合わせて分析している**」と…要するに３ﾀﾝｸではなく**“40 Ｌ”**なのだ！全く嘘の説明をして、**試験したから OK だといって…海洋投棄するのか？そんな話しはない！**



（資料８）　　右から２つ目が ｻﾝﾌﾟﾙﾀﾝｸ

（東電）黙して語らず…。

（諸団体）「国民・県民に分かりやすく説明する」と言うが…嘘の付き通しだ！「富岡町の廃炉資料館でも説明している」と言うが、同資料館に行ってｱﾙﾌﾟｽ処理水の説明する社員を求めたら「専門家がいない！」と言う。 聞いて呆れる言葉ばかりだ！話は前後するが「白濁問題」を是非聞きたい！これは昨年 12 月 21 日、再開後 57 回目の交渉で、本日欠席している人物が**「有機結合型ﾄﾘﾁｳﾑが生成されている」**（既報 No226・228・2020.10.25 ～ 11.25）と発言している。白濁の原因は何か…分かっていたら教えて欲しい？この間、「多核種除去設備、ｽﾗｰﾘｰ、汚染水問題」を研究検討してきた。東電も正確に説明しないし…最近の県民会議でも二次処理の結果とか、分析とかを説明していない。この間ズーっと開かれていない。「肝心要の県民に対する説明」はしていないではないか！空虚なものになっている。

（東電）分かりました。

２．脱水化装置で発生する廃棄物スラリーの安定処理の説明について

（東電）資料を持ち合わせていない。次回に…。

（諸団体）ＨＰで安定化処理の説明が出ている。何故説明しないのか？我々はしっかりと見ている！新聞各紙でも何の説明もしていない…馬鹿にするのもいい加減にしてほしい！

（東電）次回説明する。

３．炭素 14 の線量濃度について

（東電）満タンとなった線量濃度について順次実施している。その結果はＨＰﾎﾟｰﾀﾙサイトで公開している。ﾀﾝｸ１基ごとに公開していないため、総量については回答を差し控える。

（諸団体）推定もしていないのか？測定はしていないで…いいのか？「控える」というのは隠しているのか？データがないのか？

（東電）黙して語らず。

４、市民説明会を開催し県民に説明すること

（東電）方針の決定を県民に説明して行きたい。

（諸団体）柏崎刈羽原発では個別訪問して説明しているが福島県は何もない。

５．ﾀﾝｸ敷地利用計画をいつまで出すのか

（東電）当面利用計画を立てることは出来ない。これ以上、答えられない。

（諸団体）当面とはどういうことなのか？どっちにしても出さなければならないのではないか。全漁連を含めて全て反対だ！大熊・双葉両町だけがﾀﾝｸを置かれては困るといっている。説明が納得できないので再度回答して欲しい。

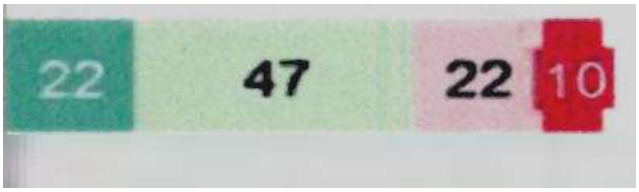
６．有機結合型ﾄﾘﾁｳﾑが生成されている問題について（既報 No226・228・2020.10.25 ～ 11.25）

（東電）同検査は行っていない。但し化学物質の性状把握の観点から、代表ﾀﾝｸを分析し大腸菌検査（微生物）を行い、ゼロになっている。ＨＰ掲載にも掲載している。第 12 回多核種除去設備小委員会でも公表されている。

７．組織改編後の状況に対する中間報告：2020 年度上半期に生じた不適合に対する分析・評価と対策について

（諸団体）時間の関係で回答は次回にしてほしい。しかし、是非聞いて欲しいことがある。

私は半世紀の間、東電という会社を見てきた。昔から酷い会社だった！しかし、事故後さらに酷くなった。社員の退職が多く、新入社員が昨年 71 名増員されている。しかし、現場は放射線が高く大変な現状にある。「不適合事象」が多いとも言っている。ここに（資料9）社員の「職場状況調査と個別対話」が実施された結果がある。



（資料９）第一原発の職場個別対話ｱﾝｹｰﾄ結果

「今の仕事にやりがいを感じるか？」の問いに「■どちらかと言うとそう思わない■そう思わない」は「**22 %＋ 10 %**」**32 %**、３人に１人が仕事にやりがいを感じていない。これは大変なことである。現実はもっと多いであろう！個別対話する上司に答えるのだから尚更であろう。現場はそのくらい大変になっていることの証明だ。「社員の多くが現場を知らない」との話が出ている。この現実を考え対処すべきだ。

次回交渉　2021 年 4 月 7 日　13 時 00 分

滋賀県に自主避難　もうすぐ10年目
青田さん　自作の布絵と詩に込められた思いを…！

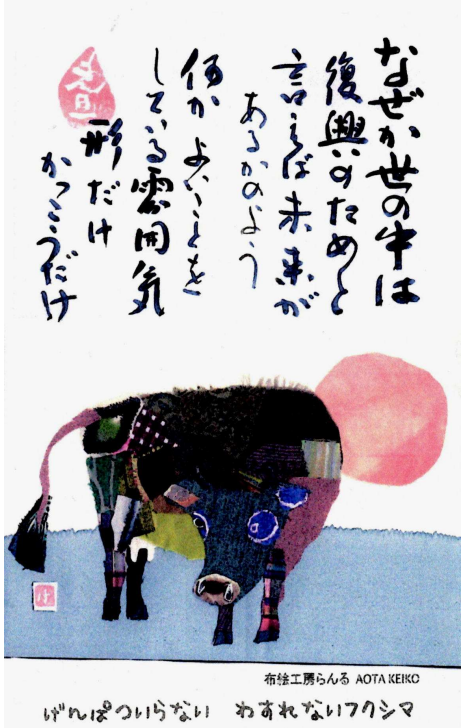
アルプスの水

よくもまんず
ぬけぬけとシャーシャーと　あけすけと
これよっか　なじょと表現できっぺか
がん首ならべて
悪びれもなく
東電の会見

「これは正常な水と
ほとんど同じでございますので
とれないわけで
ほかの原子炉施設と同じように
海水で希釈しながら出すという
評価をしてございます・・・・」

ございますのでこざいますとへらくんな
早(は)え話　放射能汚染水を海水で薄めで
海さ流すっちゅうこんだべえ

１００倍に薄めたどって
１００倍の量を流せばおんなしごった
海さ流すごんたら
なんでわざわざ海水で薄めねばなんねえの
りくつワリー話だ
アルプス処理だどって
夢みてえな
きれいな名前つけてっげんちょも
汚染水には違いねえ
アルプスの湧水も迷惑してっぺ
イソギンチャクは泡を吹き
イサザ　コオナゴ泣いている
海の家ではバアチャン商売あがったり
浜ではヤドカリ　宿おん出され
オラもおんなじヤドカリだ
※ヘラくんな　・・・軽々しく言うな
※りくつワリー　・・・筋の通らない
※アルプス　・・・多核種除去設備



（資料10）

・詩　布絵　短歌　小さな窓辺から　青田恵子　より

編集後記

「東電交渉」していると、この会社の病巣が際立っているように感じます。１９７１年運転開始した当初から「事故　故障」の連続でした。それも当然です。米国のＧＥ社「ゼネラル エレクトリック社」からターンキー方式「すぐ使える方式の契約」で未完成品を輸入した結果でした。以降「燃料集合体の亀裂で放射能の放出が続き」労働者の殺人的被ばくや松葉等からも出ました。以降「嘘と詭弁」「隠し事の連続で３１」過酷事故を迎えました。それを管理監督するはずの政府「県庁も同調する姿勢が鮮明でした。今も「その傾向は変わらず継続している」ことを強く感じます。事故後１０年：６２種類の放射能を除去するはずの「アルプス多核種除去装置」それ自体の不完全さが際立ち「第一原発の現場は「放射能まみれ」になっています。その最初の犠牲者は「そこで働く労働者」です。この会社の労働者「の扱い」は人間の尊厳などありはしません。７６年当時「社員のアンケートでさえ「原子力以外の職場「替わりたい」が５４％でした。それが現実です。悲惨さが迫ります。

石丸

出典　文献

・（資料１）気象庁・（資料２～5）福島中央テレビ zero・（資料 6)福島民報 2020.10.7
・（資料７～９）東京電力ＨＤ・（資料 10）青田恵子氏
・（注１）現実に起きた具体的事例を分析検討し法則を引き出す研究方法